

■第3回 市民サービス施設ワークショップ記録

211031@産業会館4階会議室

(1) グループワーク記録

A 班 (高校生)	B 班 (子ども・子育て)	C 班 (大人)
		
<p>【テーマ①】まちなかの空間を活かし、どんな場がつかれるか、どんな過ごし方をしてみたいか？</p>		
<p>【勉強】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に飲食しながら勉強できる場所がほしい。 ・音楽などが流れており、静かすぎない勉強スペースがほしい。 ・勉強スペースに検定資料などが置いてあると良い。 <p>【まったり過ごす】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>金平成園などの庭園や歴史資源</u>の魅力は意外と知られていないので、イベントなどで広げられると良い。 ・<u>金平成園の庭園</u>で花を見ながら本格的なお茶を飲んでみたい。 <p>【食べ歩き】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかに遊んだり、ご飯を食べられる場所があると良い。 ・食べ歩きができるものを売っているお店があると良い。 <p>【イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>こみせ通り</u>は、ドラマに出てくるような移動式の屋台が集まる場所になると良い。 ・<u>かくじ広場などの公園</u>で、木の実等でモノづくりができる場所があると良い。 ・こけしの絵付けなどのモノづくり体験ができるイベントがあると良い。 ・ふるさと戦隊と子どもたちが触れ合うイベントがあると良い。 <p>【運動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>名所めぐり</u>のマラソン大会をしてはどうか。 ・体を動かせるジムがほしい。 ・公園以外にも遊べる場所がほしい。(ボーリング等ができる場所) ・友達と運動できる場所がほしい。 	<p>【健康づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりにつながる活動をまちなかでしたい。 ・<u>スポカルイン</u>でヨガなどを行っており、スポカルの職員などがインストラクターとなって健康教室が出来ると良い。 ・スポカルヨガは女性の参加者が多く、まちなかに人を呼び込むきっかけとなる。 ・ヨガ→ホテルでご飯など、まちへの流れもあると良い。 ・広場でヨガなどをしてほしい。<u>御幸公園</u>で早朝ラジオ体操を行っており、<u>かくじ広場</u>でヨガができると良さそう。 <p>【防災設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災設備は、様々な場所に配置すると良い。 ・ベンチが緊急時にはトイレになる等、楽しい工夫ができないか。(藤崎町でも計画中) ・防災備蓄倉庫は、わかりやすい一か所に配置すれば利用しやすい。 <p>【子どもたちの遊び場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットの可否など、子どもたちの遊び場は衛生面や安全性が重要。 ・<u>こみせ通り</u>は美装化で幅員は広がったが、子供が飛び出すと危険なため、安全面を考慮できると良い。 ・<u>こみせ通り</u>には段差があり、ベビーカーが通りにくい。暑いときでも、屋根下や木陰を歩けるような空間があると良い。 <p>【子どもの居場所づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが相談しやすいように、(仮称)市民サービス施設の子育て広場に相談ポストを設置してほしい。相談を受け取った後のアクションも含めて検討できると良い。 ・<u>こみせ通り～かくじ広場</u>で夏の納涼会(こみせ通りで肝試し、かくじ広場で花火など)を行うなど、まち全体を使って子どもたちとイベントが出来ると楽しそう。(法眼寺では夏に肝試しをしている) 	<p>【ストリート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>中町・横町・前町</u>それぞれのストリートからコンテンツを広げていけると良い。それが通りに留まる・溜まるきっかけになる。 ・子どもや親、高齢者など、人々が溜まれるテラスのような場所がところどころにあると良い。大きめのこみせなどがあると良い。 <p>【温泉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩木温泉が閉店したこともあり、まちなかに温泉がほしい。 ・クラウドファンディングを活用して温泉をつくってほしい。 ・徒歩や自転車で移動できる距離に温泉があると良い。 ・温泉と多目的室が欲しい(ex.<u>松の湯・松の湯交流館</u>) <p>【蔵】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>蔵</u>をスタジオとして利用することで若者を誘致する。 ・<u>蔵めぐり</u>などがあると良い。 ・<u>こみせんやかくじ広場の作曲家の顕彰碑</u>など、音楽・楽器をテーマにした取り組みがあると良い。 <p>【イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>松の湯やこみせ駅、かくじ広場</u>などで夜市を拡散させる。 ・夜市は観光客だけでなく、住民の楽しめる場にすると良い。 <p>【まち歩き】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トレイン四季島を利用したまち歩きでは30分しかないが、まちの魅力を知るには30分では足りない。 ・中町・横町のエリアでも1～2時間は楽しめる。コンパクトなエリアで楽しめるのが良い。 ・<u>西谷家住宅やIRODORI、屯所</u>などの<u>とっておきの場所</u>を知ってもらい、滞留やリピートにつながると良い。

A 班（高校生）	B 班（子ども・子育て）	C 班（大人）
<p>【多世代交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校では他の世代と関わる機会がなく、高齢者と子どもが交流できる場所があると良い。 <p>【シンボルになる建物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平川ドームのように、大きなドーム状の建物をつくり、シンボルとなって印象に残るものになると良い。 ガラス張りの建物があると、シンボルになって、訪れる人の印象に残るのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 中高生が送迎を待つ間に待機できる場所があると良い。 子どもたちがちょっとした水遊びが出来るスポットがあると良い。 屋内から屋内にかけて、足の洗い場がほしい。 野菜づくりなどの収穫体験ができる市民農園があると良い。 <p>【親も快適に過ごせる場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> 屋根や木陰、こみせを快適にするなど、<u>こみせや遊び広場</u>に親も快適に過ごせる工夫がほしい。 	<p>【市民観光】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中町・横町・前町は本当にいい場所であることを市民が知って楽しんでほしい。普段着で来れる洒落たまちであることが特徴。 住んでいる人が集い、買い物やお茶が出来る場があると良い。 空いているスペースの情報が不足しているが、高齢者の見守り・引きこもり・集会サロンとして利用できないか。 <p>【駐車場】</p> <ul style="list-style-type: none"> 駐車場がないと市民利用が進まないので、駐車場を確保してほしい。 <u>市役所北側に駐車場</u>が確保できれば市民サービス施設も利用しやすくて良い。 <u>上町エリア</u>の有効活用手段として駐車場が良い。 <p>【買い物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日用品は、大通り沿いの店舗やネット通販には勝てないので、オンリーワンの商品を販売したい。 定期的にマルシェを開催するなど、市民サービスを充実させてほしい。
<p>【テーマ②】拠点や場をつなぎ、歩きたくなるまちなかにするには？</p>		
<p>【勉強スペース】</p> <ul style="list-style-type: none"> 勉強スペースと軽食を売っている場所を併設させると、長くいても居心地が良い場所になると思う。飲食の売り上げを場所の運営費にできるのではないか。 <p>【マラソン大会】</p> <ul style="list-style-type: none"> マラソン大会の見守りをする人をボランティアで募集する。高校生もボランティア協力が可能だと思う。 大会中の交通規制をしっかりする。 マラソン大会のチラシを学生がつくって配布できるのではないか。 名所めぐりをしながら、場所のクイズを解きながらマラソンする。 ルートをわかりやすいように交差点に印をつけたり、ふるさと戦隊などのキャラクターが案内をしてはどうか。 マラソンをしながらスタンプラリーをし、全部集めた人には黒石のお菓子をプレゼントする。 <p>【まち歩き／まちなかの歩行環境の改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> まちなかの中心に食べ歩きができる店舗やスポットを配置する。 食べ歩きをしながら休憩できる場所や映える場所をつくる 道路にベンチ等を増やし、まち歩きや食べ歩きの休憩ができる場所が増えるとう良い。 ふるさと戦隊のイベントで顔はめパネルを置くと良いのではないか。（もみじのキャラがおススメ） 道路の危険な個所や補修できていない場所を改善し、歩きやすく安全な歩行 	<p>【裏ルート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 民地でありながら人の通り道となっており、探検などで<u>裏ルート活用</u>があると良い。実際の人の通りを把握できると活用につながるか。 ポケモン GO のポケスポットとなっている場所（他都市）では、海外からの来訪者もある。 <u>裏ルート</u>を通るとコーヒー 1 杯無料、ポケスポットなど、工夫があると良い。 <p>【横町交流館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ちょっとした商談に使えるスペースがほしい。 コーヒー 1 杯で 20～30 分程度滞在できるような、オープンで気軽に滞在できる場所であると良い。 <p>【金平成園脇の道】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高い塀が連なり暗く寂しい印象があるため、夜は危なく人気がない。 塀にイラストやプロジェクションマッピング、高校生の絵など工夫を施し、明るくしたい。 図書館～（仮称）市民サービス施設をつなぐ道ではあるが、明るくないと人は歩かない。 <p>【中町・横町】</p> <ul style="list-style-type: none"> 金平成園の南側の道に比べると、いろいろな動きもあり明るい雰囲気がある。 <u>かぐじ広場</u>をもっと活用したい。 こみせ駅横の広場にあるこみ泉は、毎朝水を汲みに来ている人がおり、ブラ 	<p>【全体・まちなかのコンセプト】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常の楽しみや、イベントなど特別な日がある、市民も観光客も楽しめる「週 7 のまち」。 普段も特別な日も利用する場所でありたい。サードプレイスになる場所があるとよい。 <p>【中町エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩行者と車が共存した、歩いて楽しいまちにしたい。 楽器や音楽を楽しめるエリアにしたい。 <u>松の湯交流館、津軽こみせ駅、かぐじ広場間</u>のコンパクトなエリアを回遊して楽しめることが良い。 <p>【横町・前町・図書館エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれのエリアでコンパクトに回遊して楽しめるようになると良い。 中町から横町にかけては、魅力があるストリートで、今後<u>横町エリアと図書館エリアを結ぶ新しいストリート</u>ができる。それぞれの特徴あるエリアを結び、人が溜まれる場にしていけると良い。 通りを結ぶだけではなく、<u>市民サービス施設・横町交流館の中</u>を通りながらつながるエリアにしていきたい。 <u>前町</u>にも拠点性を創出したい。そうすることで市民サービス施設や市役所から東につながり、各エリアを結ぶ回遊性が広がる。

A 班 (高校生)

環境を整えることが大事。

【ものづくり体験】

- モノづくり体験イベントはかくじ広場で行ってほしい。(こみせ通りから近いから)
- こけしの絵付けの指導は、こけし館の人に依頼できると良い。
- モノづくりイベントは SNS など呼びかけて市内や近隣の参加者を集めると良い。

【多世代交流】

- 高齢者と子どもの交流イベントをつくり、チラシや SNS で情報を広げて参加者を集められると良い。チラシづくりや SNS での情報拡散等は高校生や若者世代でもできるのではないかな。

B 班 (子ども・子育て)

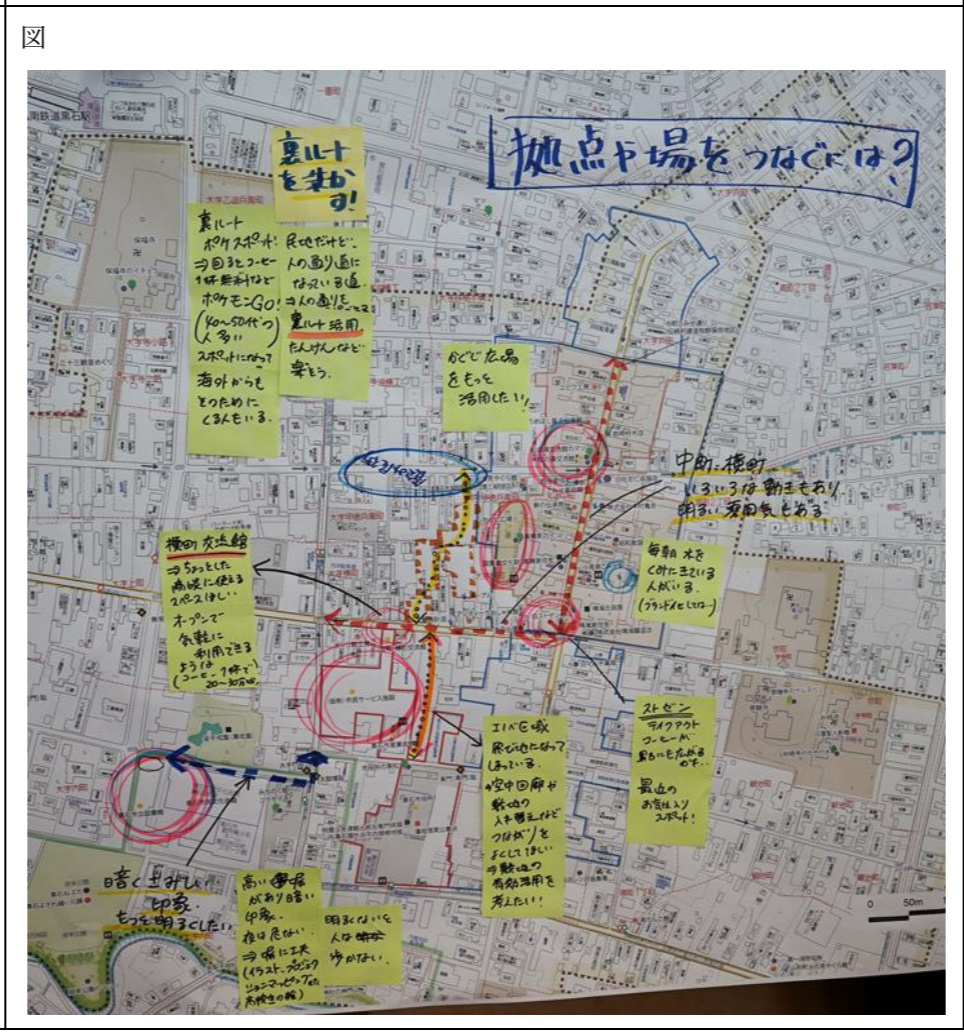
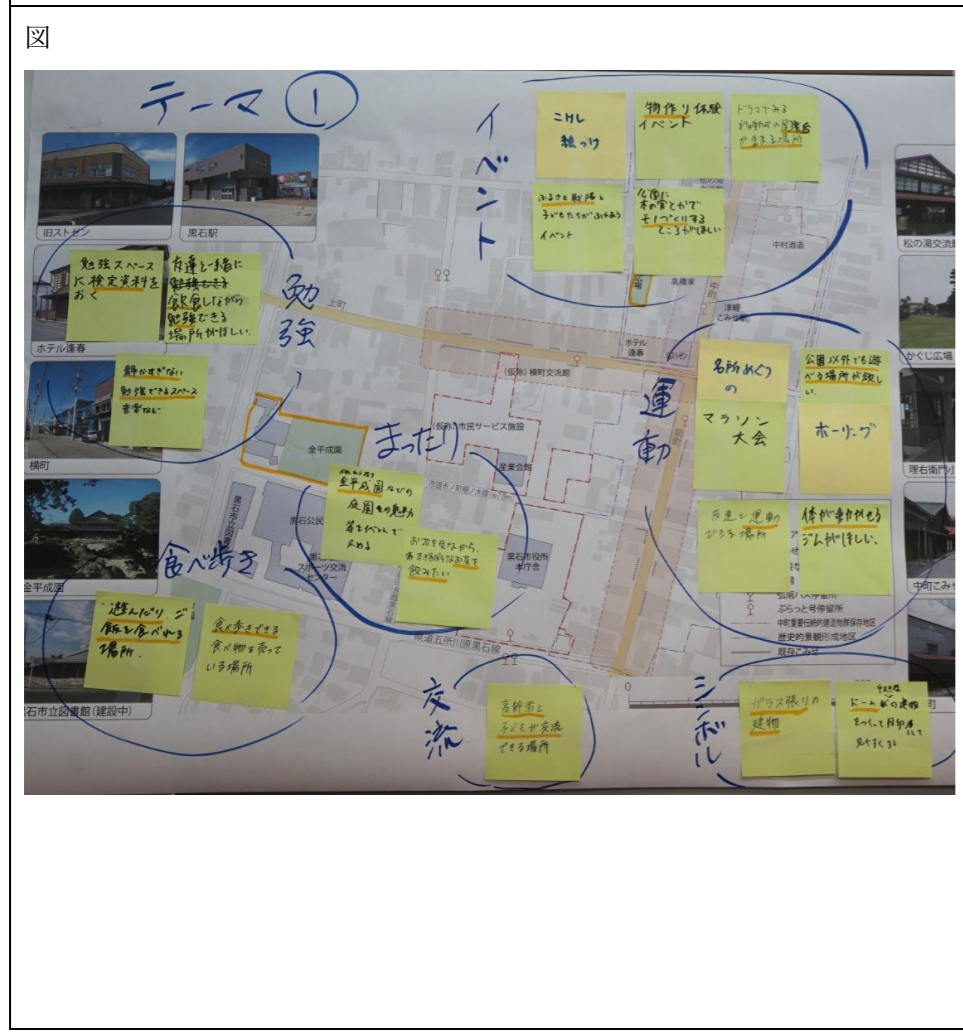
ソンド化してみてもどうか。

- ストゼンが最近のお気に入りスポットになっている。テイクアウトコーヒーが黒石にも広がる可能性があると感じている。

【エリアリノベーション】

- 敷地が飛び地になってしまっていることが気になる。空中回廊や敷地の入れ替えなどつながりを良くしてほしい。
- 敷地の有効活用を考えたい。

C 班 (大人)



(2) 講評

■林さん

- ・全班共通して、隙間空間の活用案が提案されていたと思う。子どもの賑わいスペースや、防災ベンチなど日頃から防災を意識できる「日常」の部分と、飲食のイベントや屋台など「非日常」の境目をなくして、まちの至るところで楽しさが溢れていると感じた。
- ・高校生が提案した静か過ぎない勉強の場所は、いろんな催しがある中でも多世代交流も期待でき、高校生がまちに溶け込んでいる空間だと思う。
- ・蔵の活用には、若者のバンド音楽からシックなクラシック音楽まで、練り歩いて楽しめるような音楽のまちとしての在り方もあると思う。
- ・普段のまちの日常を観光要素にしていける可能性もある。
- ・リノベーションなどの既存の取組みを進めながら、ものづくりを体験できる工房など、観光客も住民も楽しむ様子を描いた。また、空地を活用した温泉がエリアに伝播していく様子など、日常の延長にあるエンターテインメントが連鎖する様子を描いた。
- ・描いた絵は建物の内外、新旧も入り交じり、人の動きを中心に描いているので、皆さんの意見を取り入れてさらにブラッシュアップできると思う。

■工藤議員

- ・まち不自由さという観点から、現状こみせ通りの段差や駐車場スペースの少なさが問題であると感じた。
- ・高齢者や子どもたちなど、世代を越えた市民の交流の場としたいと考える。子どもたちは食べる歩きや勉強できる場所を求めており、市民サービス施設とどう連携させていくか考えていきたい。
- ・防災対策についても、防災ベンチなど意外性のあるコンテンツを活用して楽しみながら取り組んでいければ良い。
- ・健康づくりや居場所づくりなど、子育て世代の意見を聞くことができた。なかなか行政で手を出せない中で、民間の力で立ち上げるという意見が聞けて良かったと思う。
- ・蔵をどう利用するかに関して、レンガも含めて黒石のまちを特徴づけて取り組んでいけると良い。

■三上議員

- ・現在、建設中の図書館を含め、黒石市の中心市街地活性化計画を進めており、その中で回遊性向上を掲げている。かつて横町商店街は賑わっていたが、年々人口が減少し、シャッター通り化の中で、かつてのにぎわいを取り戻すことは難しいと考えていた。しかし、今日のワークショップへの参加し、住民の意見や考えを聞く中で、活性化に向けた熱意とその可能性を感じた。
- ・今日の議論の内容は、議長にも共有したい。今後も幅広く市民の意見を集め、中心市街地活性化計画に反映させたい。また、ワークショップにも引き続き参加したい。

■土井先生

- ・A班の内容は若者の視点が全面に出ていて、特に「飲食」と「勉強」が特徴的であった。食べ歩きには一定のニーズがあるが、今の黒石のまちなかではそのニーズに応えられていない。こうしたニーズを調べ、飲食しながら勉強できるスペースが望まれている。高齢者と若者の交流というソフト面の取組みは興味深かった。高齢者の方に、勉強だけでなく社会について教わる場所があってもいいと思う。身体を動かせるような場所やものづくり体験を積めるような場所がほしいという意見が印象的だった。
- ・B班の内容には、親の視点が出ていた。女性の意見にあったヨガは、かぐじ広場や御幸公園で実施できると思う。コロナの影響からか、屋外空間やオープンスペースへの着目が印象的であり、子どもを安心させて遊ばせられるエリアにしたいという思いが伝わってきた。
- ・C班には観光に携わっている人も多く、客観的な視点が特徴的であった。他の班とも共通するが、その中で様々な世代に対応できる滞留空間を生み出したいという提案されていたと思う。蔵をスタジオに活用するという意見は興味深かった。音楽という視点が新しく新鮮だった。商業的な観点では、日用品はロードサイド店には敵わないことを割り切って商店街を専門店化すること、非日常的なマルシェや夜市をエリアでも展開していくという提案が印象的だった。まちなかに拠点が生まれる中で、前町にも拠点性が欲しいと視点も面白いと思った。
- ・全体を通して、まちなかに居場所・溜まり場が欲しいという意見にまとめられると思う。既に動いている取組みを益々促進していくべきである。
- ・こうした意見に、行政がどう応えるかが重要である。取組みを促進させるために空き家や空き店舗の情報をストックしたり、これから活用していきたいという人に対してどのような支援できるか考えていくべきである。

■北原先生

- ・このワークショップの良い点として、参加者が当事者意識を持って議論に加わっているため、前向きな意見が出ていると思う。
- ・議論の中で出たキーワードが非常に大事だと思った。例えば「静か過ぎない勉強場所」は、静寂を求められる図書館と違い、うるさすぎずに落ち着くような“まちの音”が必要ということであり、建物をつくっていく際に大事にしたいと思った。
- ・子どもの居場所が求められる反面、高齢社会に対応した施設も必要性が高まっているが、多世代が交流する可能性に気付かされた。
- ・ものづくり体験館の様な大きなハコモノをつくるのではなく、エリアで分担することで、滞在するだけではない“この街区にだけできるまち・空間”という考え方が魅力的であった。
- ・地域の水の重要性に気付いており、そういった提案が若者から出ていることを大事にしたい。
- ・日常と非日常の使い方は変わってくる。次回のワークショップでは、それぞれ分けて考えた方が良い。日常で経験したからこそ非日常に生きることもある。
- ・つながりまちづくりは、つなげることがメインではなく、拠点がそれぞれ輝いていれば、自ずとつながりは生まれてくる。ただのストーリーをつくるのではなく、そこにストーリーがあることで、歩きたい、滞在したい場所になっていく。林さんが言うような内外が入り交じった風景のように、徐々にプライベートな空間をオープンにしていくことで、つながりが面白くなっていく。建設中の新しい図書館がそれを体現しており、つながることで新しい動きが出来る。現在は拠点性のない前町で新しいアクションを起こすのではなく、周辺のにぎわいを徐々に波及させていくイメージであり、伝建地区の中町で行った無電柱化を前町にもつなげていくべきである。このように動いていく楽しみが、このワークショップにはある。
- ・今参加している高校生が、20代30代になった時に、まちが成長していることを実感できると良い。

